

# 令和4年度第1回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和3年度企画事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和4年5月27日(金) 午後6時～8時  
場 所：宮城野区中央市民センター2階 第1会議室  
出席者：井上委員長、佐藤副委員長、有坂委員、葛西委員、  
庄司委員、まちづくり推進課

## 1 開会

※新型コロナウイルス感染予防による入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

## 2 評価方法について（事務局より説明）

## 3 事業報告及び質疑応答

### （1）すずむしの里づくり事業（実施主体：すずむしの里づくり実行委員会）

<質疑・意見>

委 員 報告の中に専門学校の生徒といろいろな活動を行ったとあるが、学生の反応や、実際にどういうことをしたのか教えてほしい。

説明者 3時間ほどの講座を開き、なぜスズムシが仙台の虫なのか、現状自然界でどういう状況にあるか、どういった考え方、付き合い方をする必要あるかなどを説明した。山元町にある実際にスズムシを育てている現場にも行ったが学生たちは進んで藪の中に入っていくなど高い意識で学んでくれた。

委 員 後継者育成の話も正直にぶつけてみるとできる範囲で担ってくれるかもしれない。

説明者 それは難しいかもしれない。ただ高齢化が進んで大変な状況であるため、活動をコンパクトにして各市民センターにサテライトを設けてもらいたい。

委 員 そういうことであれば各区の市民センターに活動をまとめたレジュメをどんどん渡していくのがよい。

委 員 高齢化が進む中頑張っていてとてもすばらしい。長期間活動しているとのことだがいつから活動しているのか。

説明者 平成8年から活動している。

委 員 この活動は市民センターでも扱ってくれるかもしれない。チャレンジすることは大事なので頑張っていたきたい。

### （2）おらほの公園草刈隊支援事業（担当課：宮城野区公園課）

※2番目に発表予定だった地域はっぴい子育て支援事業の説明者が遅れていたため前倒しとした。

<質疑・意見>

委 員 170万近い予算をかけて行っている区民協働事業であるが、公園課と愛護協力会の方は顔見知りのような関係性にあり気軽に相談に乗れる関係性を築けていると判断してよいか。また、機械を使って除草作業をしたり危険な場所で作業を行ったりするときはやはり公園課が行っているのか。

説明者 草刈隊の人々は公園課だけでは見回りきれないようなところまで見て、公園の整備すべき点について連絡をもらうことで適切な公園の管理ができています。ユーザーだからわかる意見をもらえ非常にありがたい。危険を伴う難しい作業については、事故だけは避けたいため相手の状況を見ながらお願いしていき、良い関係が保てるようにした

- い。
- 委員 年に1回くらいは交流会のようなものはあるのか。
- 説明者 愛護協力会のほうではあるが、草刈隊としては実施していない。
- 委員 区内では200以上の公園があるが全ての公園で業者に管理を依頼しているか。
- 説明者 全ては頼めていない。あまり人が来ない公園は草が伸びているところもある。
- 委員 地域住民から草が伸びているといった情報提供はあるか。頑張っけて地域住民が草刈をするとその4～5日後に業者が入ることがある。愛護協力会と密に連絡を取り合っけていったほうがよい。
- 説明者 当然であるが一緒に管理している公園であるので情報提供しながらやっけていこうと思う。
- 委員 地域コミュニティの活性化に公園と集会所は大事である。公園の管理がきちんとされている地域は活性化していると感じるか。
- 説明者 まめに公園の美化活動を行っている地域もある。すごく助かっているしうらやましい地域だと思う。
- 委員 この活動を続けていく以上継続して費用はかかるものなので、ぜひ企業にCSRで費用を出してもらっけて呼びかけをしてほしい。

### (3) ご近所ふれあいステップアップ事業・地域防災力向上事業（担当課：宮城野区区民生活課）

#### <質疑・意見>

- 委員 地域防災力向上事業について、防災については皆さん興味関心あるところだと思うが、セミナーありきの事業なのか。コロナ禍でもできる代案はなかったのか。
- 説明者 始まったのは平成24年からであるが東日本大震災以降防災に関心のある人に情報を伝えていくことを目的として、大学の先生を通じたセミナーのみを継続してきた。それ以外の方法については検討しきれていない。
- 委員 ご近所ふれあいステップアップ事業について、地域の現状をもっとみて成果のあるものにしてほしい。もっと高齢者に目を向けて地域との話し合っけてを深めて事業を検討してほしい。
- 説明者 コロナ禍で顔を合わせる機会が減り地域のつながりの継続が難しい時代だが、そのつながりの継続方法を一緒に考えていきたい。

### (4) 地域はっぴい子育て支援事業（実施主体：みやぎの区民協議会 子育て支援部会）

#### <質疑・意見>

- 委員 行政と社協の手の行き届かないところに手を差し伸べる素晴らしい事業である。長く続けるためには後継者の育成が重要だと感じるがすでに対策はしているか。
- 説明者 部会は児童館職員や家庭健康課などから構成されている。異動による人の入れ替えもありどンドン若い人たちも入っけてきている。そういった移行はうまくいっけて思っけている。
- 委員 SNSの活用や動画配信などコロナ禍でのニュースタンダードとなるような活動をしているのは非常に良い。
- 説明者 以前から動画配信をやりたいという話はしていたがここまで早く実現できたのはコロナ禍のおかげであるのかもしれない。
- 委員 部員の方々は子どもにかかわるお仕事をしているので世代の交代はうまくいっけて思う。理想的な後継者の引継ぎが期待できる。コロナ禍でできなかった活動も少しずつできるようになると思うので、子育て世代の居場所をつくれるような活動を期待している。

### (5) みやぎの・まつり（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 特設サイト制作の委託は随意契約か。

説明者 仕様書を固めて見積もり合わせという形での契約である。

委員 仕様書の中にサイト閲覧向上の工夫に関する要素はあったか。

説明者 検索で引っかかるようにするというような項目はあったが、それ以上のものは設けていなかった。

委員 せっかくお金をかけて作るのであればそういったところも仕様書に盛り込んでほしい。令和3年度の取り組みが今年のみやぎのまつりにどのように影響してくると感じているか。

説明者 過去2年実施していないが、サイトを閲覧してくれた人に思い出させる役割はできた。閲覧者のコメントを残せるような機能をつくらなかったことは反省点である。

委員 まつりは実行委員長のカラが強く出る。区民が何を喜び何に関心を持っているかよく精査して進めていってほしい。

(6) みやぎの地域力向上支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 実際に SNS の情報発信をひろうことができた。よい活動だと思う。委託料の明細を教えてください。

説明者 コーディネーター人件費が 550,000 円、講師謝礼金 20,000 円、会場使用料 3,600 円、事務用品等が 12,026 円である。

委員 人件費 550,000 円の詳細を知りたい。

説明者 コロナ禍で活動が制限された部分もあるが1年間通じて企画、運営を依頼している。部員との連絡調整や記事のチェックもしてもらっているという点でこの金額となっている。

委員 Instagram や Facebook はだれが管理しているのか。

説明者 それぞれみやぎの・アーカイブ部としてアカウントを持っている。事務局と委託先である風の時編集部佐藤氏でパスワードを共有し管理している。実際に記事の投稿等を行っているのは佐藤氏である。

委員 この事業は歴史探訪だけで終わってもらっては困る。未来に向けて地域課題や地域資源に関する取り組みをしてほしい。

説明者 事務局でもうまく調整していきたいと考えている。

委員 以前メインの対象地区としていた駅東エリアは現在自走できそうな状態か。

説明者 部員同士のつながりや佐藤氏とのつながりは残っており現在も自発的に活動を続けている。展示会等でこちらの予算を少し使うことはあるがメインの活動地区ではないため相談しながら支出している。

委員 榴岡近辺、原町と対象地域を変えているが次の対象地域は決まっていないのか。

説明者 深堀して面白い地域を対象とする予定だがまだ決まっていない。これから検討していく。

委員 最終的なまとめをどこかでして、対象地域ごとに何かを残していく必要があると感じる。

説明者 SNS での発信がこの活動のメインではあるがそれ以外に年に1回まとめとして展示会を行っている。

(7) 宮城野盆踊り普及事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 希望する団体に講師派遣をすることのだが、どのように声があがってくるのか。また、作成した DVD はまだ残っているのか。

説明者 DVD の在庫はまだある。希望する団体があれば無償で配付する予定である。コロナ禍になる前は町内会に踊り手や講師の派遣を希望するかアンケートをとっていた。そういった過去の取り組みや広報活動によって現在も派遣を希望する声はある。

- 委員 ぜひ印象に残る PR 活動をしてほしい。機会があればみやぎのまつりでもブースを設けてほしい。
- 委員 宮城野盆唄はしっかり練習しないと踊れないのでなかなか定着しない。今どれだけ頑張っても二番煎じになってしまっている。自然に廃れていったものを復活させるのは難しいと思う。実態をよく見ながらどうしていけばよいか考えてほしい。何年か経ったらそれなりのけじめをつなげなければならないだろう。

#### (8) 震災の記憶伝承と命を守る防災学習（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

##### <質疑・意見>

- 委員 震災の伝承の事業は被災地としての責務である。メモリアル交流館とノウハウの共有はやっているか。
- 説明者 婦防朗読会の方が朗読をしにきているが、ノウハウの共有まではしていない。
- 委員 区の枠を超えた活動を期待している。
- 委員 今年度対象とする学校は前年度と別のところにするのか。また、令和3年度に事業実施の対象とした学校はどのように選定したのか。
- 説明者 未定ではあるができれば別の学校にしようと思っている。令和3年度対象とした学校はこちらからの事業の説明や呼びかけに対して手を挙げてくれた学校である。宮城野区中央市民センターの教育主事の方々にもご協力いただいている。

#### (9) みやぎの・まちづくり若手人材育成支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

##### <質疑・意見>

- 委員 まちづくり活動には高齢化や後継者不足の問題がある。今その悩みに直面しているまちづくり活動をこの事業で育った若手が助けるようになればよい。コーディネーションの研修はもちろんトライアル事業やPDCA サイクルを研修に盛り込んでほしい。
- 委員 コーディネーターの育成がメインになるのか。どういう人たちを育成していくのか銘打ったほうがわかりやすいのではないか。
- 説明者 若い世代で地域との関わりが積極的でない人や地域コミュニティへの入り方がわからない人が多い。若い人々が地域を知るきっかけになってほしいという目的もある。
- 委員 自分が前に出る人ではなく人と人をつなぐ人が育ってほしいと思う。何かを作り上げたほうが自己肯定感や自尊心もでると思うのでまずはそれでもいいが、いずれは町内会に入るような周りを支える立場になってほしい。2年は少し短い気もするが宮城野区に残ることを選択してくれる人になってほしいと思う。
- 委員 業務委託のメリットはどう考えているか。
- 説明者 宮城野区まちづくり推進課だけだとマンパワー的に厳しくやりたい事業ができないこともある。外部に委託することでやりたい事業ができるようになり、役所にはないコーディネート力を持っているためよりよい活動ができるようになると期待される。

## 4 閉会